「特別の教科　道徳」学習指導案

日時　令和元年１１月２０日（水）第５校時
第５学年２組　３３名
授業者　　小沼　繁徳

＜目指す児童像＞
自分の考えや意見を伝えるとともに、自律的に判断して行動できる児童

１　主題名　『広い心で』（B　　相互理解、寛容）
教材名　「名医、順庵」（出典：東京書籍　『新しい道徳　５年』）

２　主題設定の理由（指導観）

（１）ねらいとする価値　（価値観）

人は、不完全さを自覚していれば、自分のものの見方、考え方が絶対に正しいということはありえないと分かる。そのことから、相手の過ちに対しても、自分も同じ過ちを犯してしまうかもしれないと許す心も生まれる。広がりと深まりのある人間関係を構築するためには、広い心で相手の立場に立って認め合い、許し合うことが大切であるということを理解できるようにしたい。

（２）児童の実態（児童観）

本学級の児童は、男女ともに仲が良く、休み時間になると、鬼遊びやかるた遊びで一緒に遊んでいることも多く見られる。

一方で、遊びのルールについてもめたり、放課後遊びがある下校時に、早く並べない友達に対して強い口調で「早く並べよ。」「ふざけんなよ。」と言ったりするなど、友達の行動が自分の利害に関わると、簡単には許せないことがある。

そこで、今回の授業では、登場人物の気持ちを考えさせることで、相手の立場に立って物事を考えることの大切さや、人に対して寛容であることのよさに気付かせたい。

（３）教材について（教材観）

順庵が、弟子の一人である孝吉の過ちを一方的に叱責するのではなく、孝吉の心の内を静かに聞き、遠く離れた病床の母への思いを知って高麗人参を盗もうとした過ちを許すという話である。順庵の人柄のすばらしさは、孝吉の心の内を彼の立場に立って聞き、許しているところや、孝吉の悩みに気付いてやれなかったことを謝罪しているところから感じることができるだろう。寛容な態度で弟子に接する順庵の姿から、謙虚で広い心を持って相手を認めることのよさを感じ取れるようにしたい。

３　高学年ブロック分科会の取組

（１）学習指導案の作成において話題になったこと

・議論させる発問の内容や、その数について

・ねらいに迫るための手立てについて

・時間配分について

（２）学習指導案の作成までの取組

１０月２９日（火）　高学年ブロックにて指導案を検討する。

１０月３１日（木）　高学年ブロックにて指導案を再検討する。

１１月　７日（木）　５年１組で事前授業を行う。

１１月１４日（木）　研究推進委員会にて指導案を検討する。

４　研究主題に迫るための手だて

（１）「主体的な学び」に導くために

導入の工夫

・範読をする前に、順庵の人柄や物語の概要を伝えることで、物語の内容を理解しやすくするとともに、孝吉の葛藤する気持ちにも理解を示しやすくする。

（２）「対話的な学び」に導くために

学習形態の工夫

・座席をコの字型にすることで、発表者の顔を見ながら話を聞いたり、一人一人に考えを示させる発問の際にクラス全体で共有したりしやすくする。

考えを深めさせるための工夫

・発表者の考えと自分の考えとの共通点や相違点を確認させる声かけや問いかけを行うことで、様々な考えに触れる意識をもたせ、自分の考えを深めさせる。

（３）「深い学び」に導くために

発問の工夫

・中心発問をした後、「広い心」について再び考えさせる時間を設けることで、自分の考え方が変わったところや、新しく気付いたことについて共有できるようにする。

発問の工夫

・発問を精選し、児童が考えたり発表したりする時間を十分に確保することで、「広い心」について考えを深めたり、広げたりすることができるようにする。

５　本時の展開

（１）　ねらい

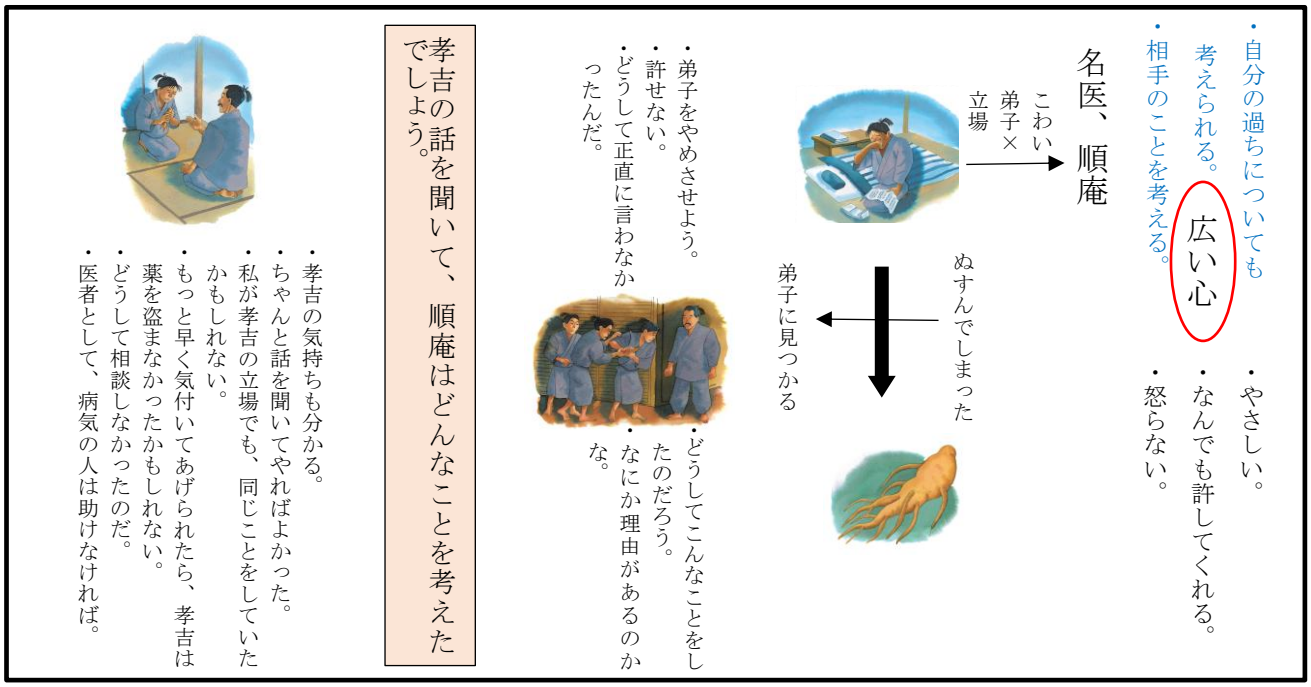
順庵と孝吉のかかわりのなかでの順庵の思いを考えることを通して、互いに認め合うために相手の立場や気持ちを受け入れ、広い心で人と接しようとする心情を育てる。

（２）　本時の展開

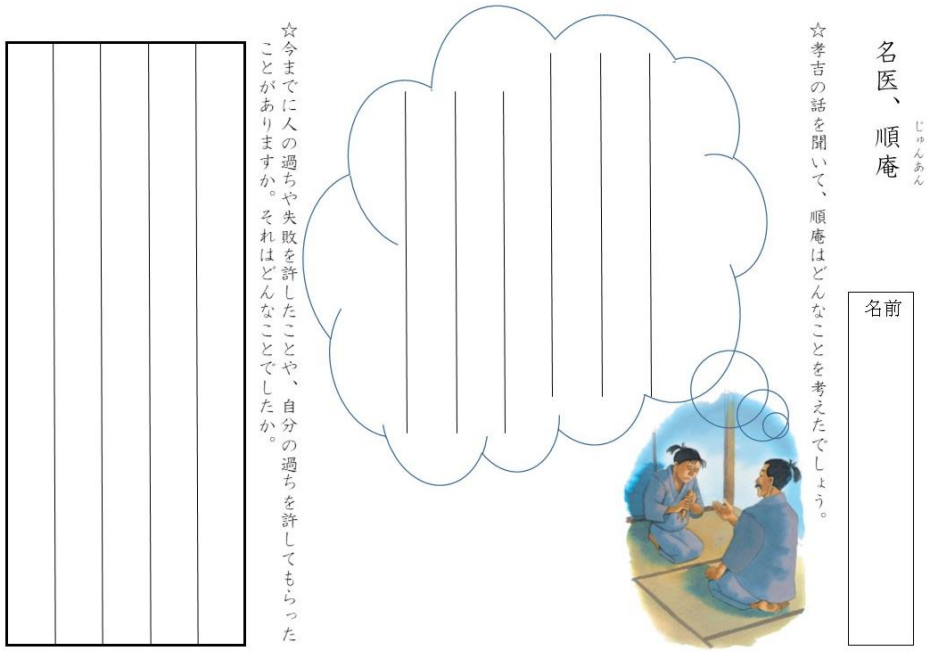
過程	時間	学習活動（〇発問◎中心発問・予想される反応）	◇指導上の留意点　◆評価（方法）
導入	3分	1　「広い心の持ち主ってどんな人？」ということについて、発表する。	◇　「広い心」について全体に共有することによって、さまざまな捉え方があることに気付かせる。
展開・前半	30分	2　「名医、順庵」を読んで話し合う。 〇順庵に声を掛けられたときに、本当のことを言えなかった孝吉は、どのようなことを考えていたでしょう。 ・弟子をやめさせられるかもしれない。 ・師匠である順庵に言ったら怒られるかもしれない。 〇孝吉を自分の部屋に連れて行くとき、順庵は孝吉のことをどう思っていたのでしょう。 ・今すぐに弟子をやめさせよう。 ・何か理由があるのかもしれない。 ・なぜ、私を裏切るような行為をしたのだ。 ◎孝吉の話を聞いて、順庵はどんなことを考えたでしょう。 ・元気がないのに気付いていながら、ちゃんと話を聞いてあげなかった自分にも責任がある。 ・もし私が孝吉の立場だったら、すぐにでも看病に行きたいと思うのは当然だ。早く帰してやりたい。 ・盗みは絶対にしてはいけないことだが、孝吉の気持ちも分かる。母のためにやったことなので、許してやろう。 〇最初に考えた「広い心」について、付け足すことはありますか？	◇教材を範読する前に、順庵の人柄や物語の概要を押さえておく。 ◇順庵と孝吉との関係性を押さえる。 ◇孝吉の心の内を推し量りながら、冷静に話を聞こうとする順庵の行動のよさを捉えるようにする。 ◇ワークシートに書くことを通して、孝吉の苦悩に寄り添って最善の対処を考える順庵の心に内をじっくりと考えるようにする。 ◆順庵の、孝吉の立場に立って気持ちを受け止め、過ちを許そうと決めた心の内に気付けたか。 （ワークシートの記述・発言） ◇問い返しや補助発問を行い、広い心とはどんなものかを深く考えさせる。

展開・後半	10分	3　あなたは今までに人の過ちや失敗を許したことや、自分の過ちを許してもらったことがありますか。	◇ 自分の生活を振り返り、そのときの気持ちについて考え、広い心で相手を許すことのよさを感じることができたか。
終末	2分	4　詩の朗読をする。 ・相田みつをの「セトモノ」を聞く。	◇ 広い心で相手の立場や気持ちを受け入れようとする意欲を高める。

6　板書計画



7　本時のワークシート



資料（終末）　　相田みつを　「セトモノ」

8　資料分析表

５年「名医、順庵」教材分析表

＜場面＞	＜順庵の心の動き＞	＜孝吉の心の動き＞	＜発問＞	＜発問の意図＞
母からの手紙で、母が重い病気にかかり、寝たきりになってしまったことを知り、孝吉は元気がなかった。	・このごろ、孝吉の元気がないな。 ・体の具合でも悪いのか。	・母の病気を治してやりたいが、高麗人参はとても高価で買えない。 ・早く帰って母の看病をしたいが、弟子をやめさせられるかもしれない。	○順庵に「元気がないが」と声を掛けられたとき、孝吉はどんなことを考えたでしょう。	病気に苦しむ母への思いと、学問に対して厳格な順庵の人柄を踏まえ、孝吉の悩む気持ちを考えさせる。
孝吉は、ある夜とうとう、薬部屋から高麗人参を持ち出して、母の待つ家に戻ろうとした。		・どうしても母に薬を持って帰ってあげたい。 ・順庵先生、ごめんなさい ・母を助けるには、こうするしかない。		
順庵は、高麗人参を持って出ようとした孝吉を見付け、自分の部屋に連れて行った。	・今すぐに弟子をやめさせよう。 ・何か理由があるのかもしれない。 ・なぜ、私を裏切るようなことをしたんだ。	・順庵先生に怒られる。 ・弟子をやめさせられるに違いない。 ・大変なことをしてしまった。どうしよう。	○孝吉を自分の部屋に連れて行くとき、順庵は孝吉のことをどう思っていたのでしょう。	孝吉の心の内を推し量りながら、冷静に話を聞こうとする順庵の行動のよさを捉えるようにする。
			○順庵の部屋に連れて行かれるとき、孝吉はどのようなことを考えたでしょう。	母のためとはいえ、過ちを犯してしまった孝吉の気持ちを考えさせる。
順庵は、孝吉を厳しく問い詰め、孝吉は今までのことをありのまま話した。	・ちゃんと話を聞いてあげなかった自分にも責任がある。 ・もし私が孝吉の立場だったら同じことをしたかもしれない。 ・孝吉の気持ちも分かる。母のためにやったことなので、許してやろう。	・もう全てを正直に話そう。 ・どんなに怒られても仕方がない。 ・順庵先生、本当にすみませんでした。	◎孝吉の話を聞いて、順庵はどんなことを考えたのでしょう。	孝吉の苦悩に寄り添って最善の対処を考える順庵の心の内をじっくり考えるようにする。
順庵に許してもらい、孝吉の目から涙が流れた。		・許してくださるなんて、なんと心の広い方だ。 ・本当にありがとうございます。 ・これからは、順庵先生を絶対に裏切らないようにしよう。	○過ちを許され、家へ帰るように言われた孝吉は、順庵のことをどう思っただろうか。	順庵の寛容な振る舞いに感動する孝吉の気持ちを感じ取れるようにする。